文化財再発見コーナー

たかおか 温故知新

高岡鋳物産業の発祥を示す／前田利長書状

慶長14年(1609)9月13日、前田利長は新たに築いた高岡城に入城し、同時に城下町も開きました。利長は高岡に多くの家臣団・寺社・商人らのほか職人も各地から呼び寄せ、城下町の発展を図りました。金屋町は慶長16年(1611)に七人衆が開いたとされていますが、実はそれを示す一次（同時代）史料は現在のところ確認されていません。

写真の書状には、「にしぶかなやのいもし…（中略）高おかへこし候てしごとなどいたし候へと申し候べく候」とあり、由緒ある「河内（勅許）鋳物師」の流れをくむ砺波郡戸出西部金屋村（現高岡市戸出西部金屋）の鋳物師（鋳造技術者）を高岡へ招くよう側近（駒井守勝ら）へ指示したもので、高岡金屋町の鋳物産業の発祥を示す貴重な史料です。

年未詳5月30日付前田利長書状
〈市指定文化財／博物館蔵〉

利長は鋳物師たちに当時は大河であった千保川の左岸（城下町の対岸）5,000坪の土地（拝領地）をはじめ、各種の特権を与えました。これを受けて鋳物師は様々な鉄器（鍋釜・鋤鍬や鉄金具など）を製造し、成長していきました。

やがて江戸中期には銅器の生産もはじまり、全国の鋳物師を支配した公家・真継家の台帳によると、江戸後期にはついに日本一の鋳物師数を誇るまでに発展しました。（仁ヶ竹主幹）

問合先 TEL 博物館 20−1572